

## 第 80 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：平成 29 年 3 月 13 日（月） 10：00～11：45

場所：奈良商工会議所 4 F 中ホール

出席者：

【委員】 伊東委員、川池委員、倉橋委員、河本委員、庄田委員、  
立川委員（委員長）、舘野委員、谷委員、藤次委員、堀野委員

【事務局】 奈良県県土マネジメント部 河川政策官ほか

議事 1. 進捗点検のとりまとめ（淀川水系（奈良県域）・紀の川水系（吉野川））

2. 環境モニタリング調査結果について

質疑応答：

1. 進捗点検のとりまとめ（淀川水系（奈良県域）・紀の川水系（吉野川））

立川委員長	委員から出された意見について、次の 5 年間にどのような形で事業に反映しているか把握できるようなとりまとめ方をお願いしたい。
谷委員	資料 2-2-1 の P12 にアオハダトンボ、キイロサナエが確認されたとあるが、生息環境から、アオハダトンボはハグロトンボ、キイロサナエはヤマサナエであると考えられる。
事務局	同定結果を再度確認するとともに、谷委員にも種の確認をお願いしたい。
堀野委員	「河道改修上のネック地点」と「流下能力上のネック地点」の 2 つのネックの使い方が混在しており、誤解を受けやすい表現となっている。
事務局	「流下能力上のネック地点」という表現を「流下能力上で一番少ない地点」等、もう少しわかりやすく表現に修正したい。
堀野委員	資料 2-2-2 の P7 の流下能力図で「ネック箇所」と赤で囲って矢印を張っている意味が分からない。 また、ネック箇所となっている箇所の右側の、流量不足で改修することによって流下能力が向上するところもネック箇所ではないのか。
事務局	資料 2-2-2 の P7 は、流下能力図を一定の区間を載せているが、ここでは阿田工区のネックという意味であり、右側の流量不足で改修することによって流下能力が向上する箇所は次の工区の佐名伝工区のネック箇所である。
立川委員長	資料 2-2-2 の P7 の流下能力図で流下能力不足の箇所で、オレンジで着色されていない箇所は、前回の説明では、工事をしなくても大丈夫な箇所という説明だったと記憶しているが。

事務局	そのとおりである。特に家屋等の守るべき資産がない箇所である。
立川委員長	説明を記載してはどうか。
河本委員	地図には全てスケールを入れてほしい。
河本委員	資料 2-2-2 の P7 の浸水図の解像度をあげてほしい。 どのようなところで浸水深が深くなるのかがわかるように浸水深を透過にして、下の地図が見えるようにしていただきたい。
河本委員	資料 2-2-2 の P7 の浸水図で 100m×100mメッシュと記載があるが、メッシュが長方形というのはおかしいので改善していただきたい。
事務局	1km 区間を 10 に分割することから通称 100mメッシュと呼んでいる。実際には、地球の緯度経度で 10 分割してメッシュを作成していることから、100m×100mメッシュとはならない。
立川委員長	100m×100mメッシュというのは何を表しているのか。
事務局	氾濫解析では、氾濫流がどのように広がっていくか平面的に把握するため、地形条件等のさまざまな情報を持ったメッシュを使って計算する。計算結果を用いて、浸水するか、浸水深がどの程度かについて、メッシュを着色して表現している。
伊東委員	紀の川水系では 100m×100mメッシュを使っているが、淀川水系では記載内容が異なる。紀の水系と淀川水系では、別のやり方をやっているということか。
事務局	河川の氾濫形態に応じた氾濫解析を実施している。
立川委員長	どのような計算をしたかを記載すればよいと思う。
堀野委員	資料 2-2-2 の P25 の「点検指標① ネック地点の対応状況」の点検結果が、「事業実施に向けて今後実施内容について検討して地元と協議をしていくと。」と記載しているが、何を点検したかがわからない。「現時点では、まだ改修できていない。また、それは何年には始める予定である」等について冒頭に記載したほうがよいのでは。
事務局	ご指摘を踏まえ、未改修であればなら「未改修」と点検結果に記載する。

## 2. 環境モニタリング調査結果について

谷委員	<p>調査項目に昆虫を追加してはどうか。</p> <p>昆虫の調査が難しい場合は、ゲンジボタルの調査を実施してほしい。</p> <p>ゲンジボタルは、幼虫のときは水に住み、サナギのときには、近くの土の中に潜る。河川を両面コンクリートに改修すれば、サナギになれない。</p> <p>また、地域住民が一番関心を持っているのがホタルであり、河川改修でホタルがいなくなったという人が多いことからホタルに注意が必要である。</p> <p>底生動物調査では、ゲンジボタルの幼虫を見つけるのはむずかしいことから、生息が確認しやすい成虫が夜に飛び出す6月ぐらいに調査を実施してはどうか。</p>
立川委員長	<p>6月頃のホタルの調査については、予算との関連で難しいと思われるが、検討していただきたい。</p>

以上